

令和4年度「経営比較分析表」について

令和4年度の経営比較分析表が公表されましたので、下記のとおり報告します。

記

1. 令和4年度 経営比較分析表・・・別紙のとおり

- ・公営企業会計（法適用）

- ①水道事業
- ②公共下水道
- ③特定環境保全公共下水道
- ④農業集落排水
- ⑤漁業集落排水
- ⑥小規模集合排水処理

- ・特別会計（法非適用）

- ⑦特定地域生活排水処理
- ⑧個別排水処理

※②公共下水道、③特定環境保全公共下水道、④農業集落排水、⑤漁業集落排水及び⑥小規模集合排水処理は、令和元年度から地方公営企業法を適用

2. 公表方法

島根県：ホームページで公表済。

出雲市：議会説明後、ホームページで公表します。

3. 参考

「経営比較分析表」とは、経営及び施設の状況を表す経営指標を活用し、当該団体の経年比較や他の公営企業との比較を行うことにより、経営の現状や課題等を的確に把握するとともに、市民の皆様などにわかりやすく説明するため、総務省が平成27年度（平成26年度決算）から策定し公表を行っているものです。

4. 添付資料

- ・経営指標の概要（水道事業、下水道事業）
- ・令和4年度「経営比較分析表」類似団体区分及び団体数・全国団体数

経営比較分析表（令和4年度決算）

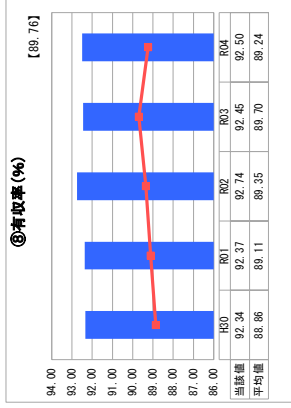
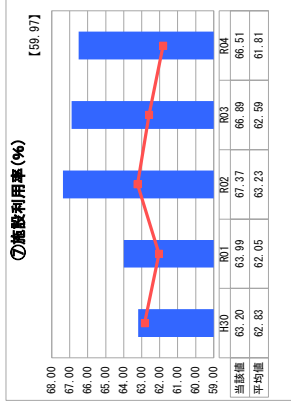
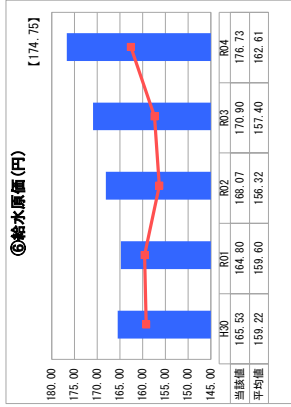
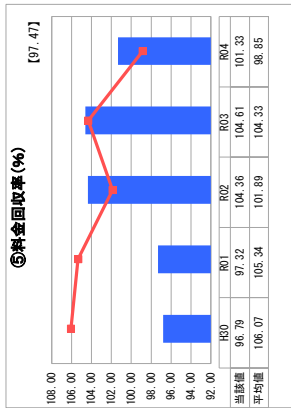
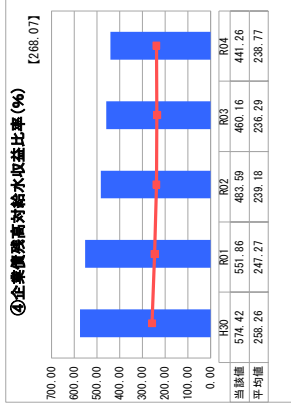
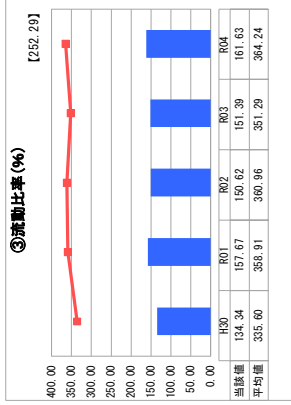
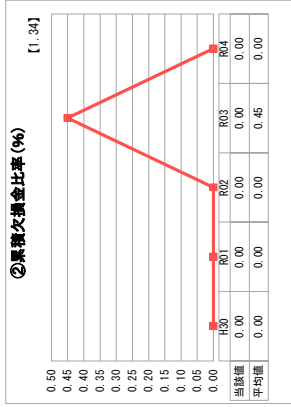
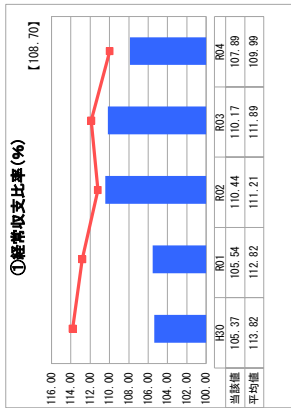
島根県 出雲市

| | | | | | | | |
|-----------|-------------|--------|--------------------------------|-----------|--------------------------|----------------------------|--------------------------|
| 業務名 | 業務種別 | 事業名 | 類似団体区分 | 管理者の情報 | 人口(人) | 面積(km ²) | 人口密度(人/km ²) |
| 法適用 | 水道事業 | 末端給水事業 | A3 | 自治体職員 | 173,835 | 624.32 | 278.44 |
| 資金不足比率(%) | 自己資本構成比率(%) | 普及率(%) | 1か月20m ² 当たり原価総金(円) | 現在給水人口(人) | 給水区域面積(km ²) | 給水人口密度(人/km ²) | |
| - | 67.77 | 81.88 | 3,330 | 141,772 | 236.48 | 599.51 | |

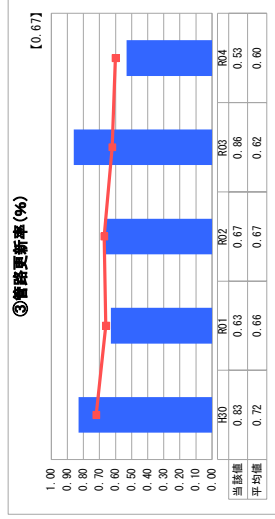
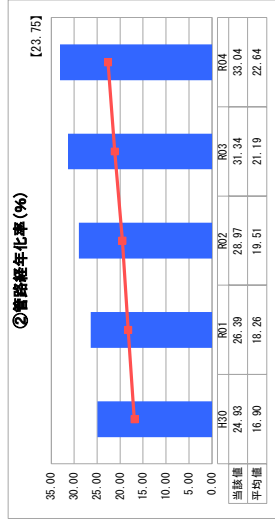
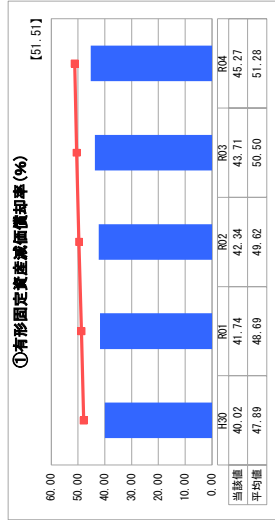
グラフ凡例

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- 令和4年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について
- ① 動力費が増加したため、前年度より低くなり、類似団体を下回っている。
 - ② 欠損金なし。
 - ③ 未払金の減少により流動負債が減少したため、前年度より高くなったが、類似団体を下回っている。
 - ④ 企業債現在高が減少したため、前年度より低くなったが、類似団体を上回っている。
 - ⑤ 供給単価の増加に比べ、給水原価の増加が上回ったため、前年度より低くなったが、類似団体を上回っている。
 - ⑥ 費用の増加及び年間総有収水量が減少したため、前年度より高くなり、類似団体を上回っている。
 - ⑦ 一日平均配水量が減少したため、前年度より低くなったが、類似団体を上回っている。
 - ⑧ 年間総有収水量の減少に比べ、年間総配水量の減少が上回ったため、前年度より高くなり、類似団体を上回っている。

2. 老朽化の状況について

- ① 備前対称資産の帳簿原価の増加に比べ、減価償却累計額の増加が上回ったため、前年度より高くなったが、類似団体を下回っている。
- ② 計画的に管路更新を進めているが、基幹管路の整備を推進し影響もあり、法定耐用年数を超えた管路延長が増加したため、前年度より高くなり、類似団体を上回っている。
- ③ 計画的に管路更新を進めているが、基幹管路の整備を推進し影響もあり、更新した管路延長が減少したため、前年度より低くなり、類似団体を下回っている。

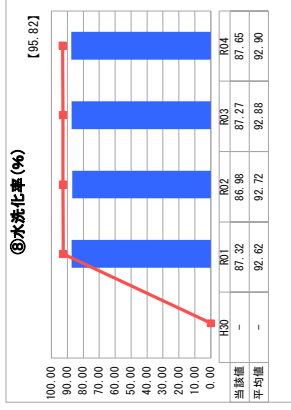
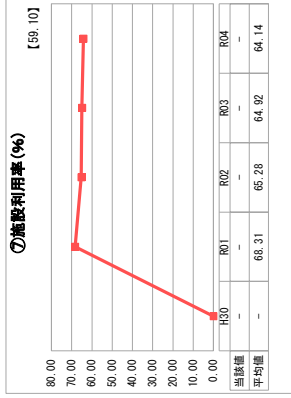
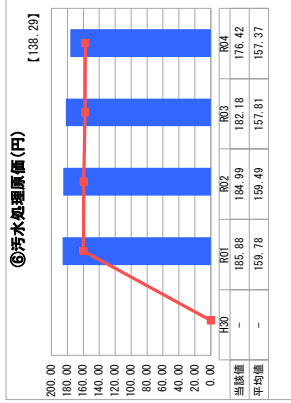
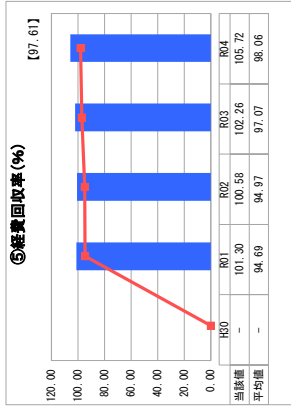
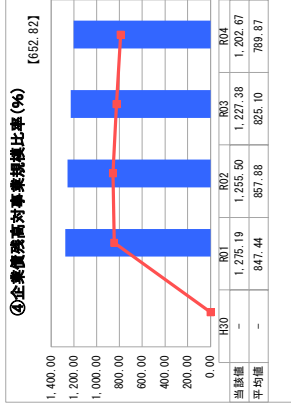
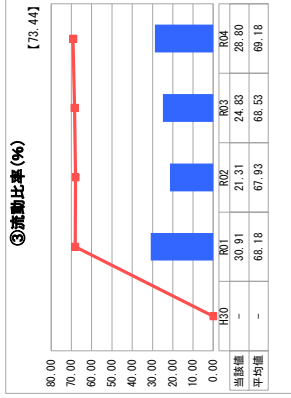
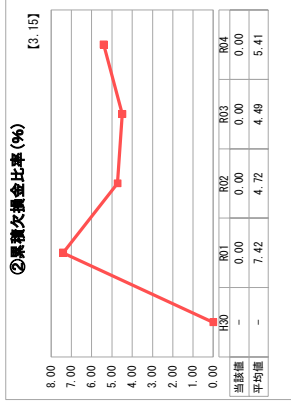
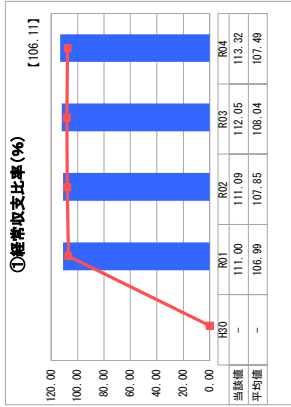
全体総括

経営状況については、前年度と概ね同様の比率となったが、類似団体に比べ、流動比率は低く、企業債高対給水収益比率は高くなっている。
老朽化の状況については、類似団体に比べ、有形固定資産減価償却率は低いが、管路経年比率は高くなっており、今後も管路の更新需要が一層高まる見込みである。
このような状況の中、令和2年4月に水道料金を改定し経営の安定化を図り、「出雲市水道事業ビジョン」に基づいた計画的な施設の更新と耐震化の取組を推進している。

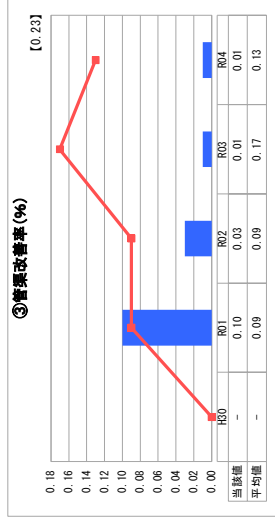
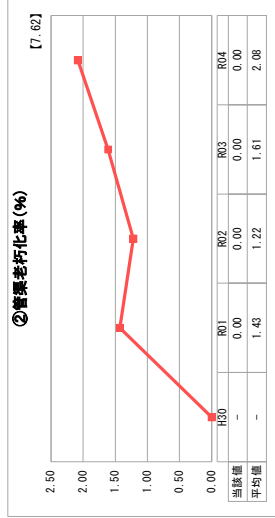
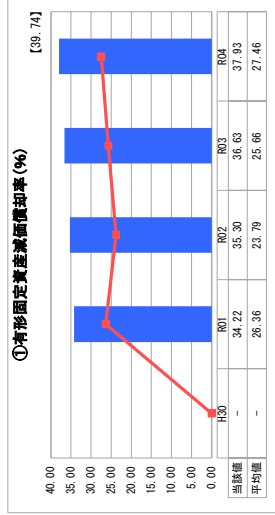
経営比較分析表（令和4年度決算）

| | | | | | | | |
|----------------|----------------------|-----------------|-----------------------------------|----------------------|--|---|-----------------------------------|
| 鳥根県 出雲市 | | 事業名 公共下水道 | | 類似団体区分 Bd1 | | 管理者の情報 自治体職員 | |
| 業務名 下水道事業 | 業種名 下水道事業 | 事業名 公共下水道 | 面積(km ²) 624.32 | 人口(人) 173,835 | 人口密度(人/km ²) 278.44 | 業務名 公共下水道 | 面積(km ²) 624.32 |
| 資金不足比率(%) - | 自己資本構成比率(%) 41.81 | 普及率(%) 49.60 | 処理区域面積(km ²) 30.78 | 処理区域内人口(人) 85,873 | 処理区域人口密度(人/km ²) 2,789.90 | 有収率(%) 100.00 | 処理区域面積(km ²) 30.78 |
| | | | | | | 1か月20m ³ 当たり家賃料金(円) 3,352 | |

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



グラフ凡例

- 当該団体値 (当該値)
- 類似団体平均値 (平均値)
- 令和4年度全国平均

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について
- ①収益の減少に比べ費用の減少が多かったため、前年度より高くなり、類似団体を上回っている。
 - ②欠損金なし。
 - ③現金・預金の増加により流動資産が増加したため、前年度より高くなったが、類似団体を下回っている。
 - ④企業債現在高が減少したため、前年度より低くなったが、類似団体を上回っている。
 - ⑤使用料収入により汚水処理に係る費用を賄えている。使用料収入が増加し、汚水処理費が減少したため、前年度より高くなり、類似団体を上回っている。
 - ⑥汚水処理費が減少し、年間の収水量が増加したため、前年度より低くなったが、類似団体を上回っている。
 - ⑦処理施設を所有していないため、表示されない。
 - ⑧未普及解消事業を継続しているため、処理区域内人口が増加し、処理区域人口の増加に比べ、水洗化人口の増加が多かったため、前年度より高くなったが、類似団体を下回っている。

2. 老朽化の状況について

- ①未普及解消事業を継続しているため償却対象資産の帳簿原価は増加した。供用開始後34年を経過し、減価償却累計額が増加したため、前年度より高くなり、類似団体を上回っている。
- ②営業の耐用年数は経過していない。
- ③営業調査等により判明した不良箇所について更新を行っているが、前年度と概は同等であり、類似団体を下回っている。

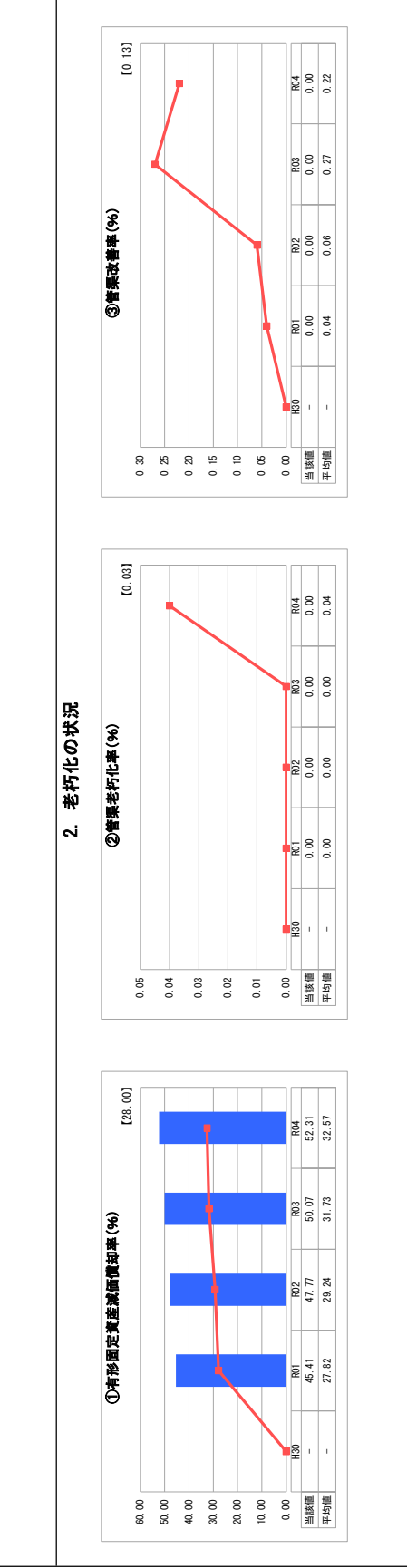
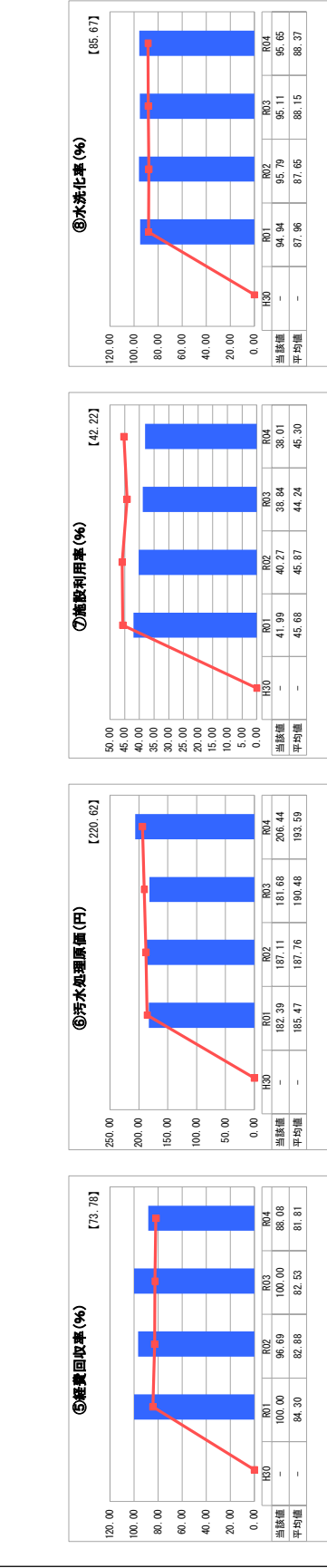
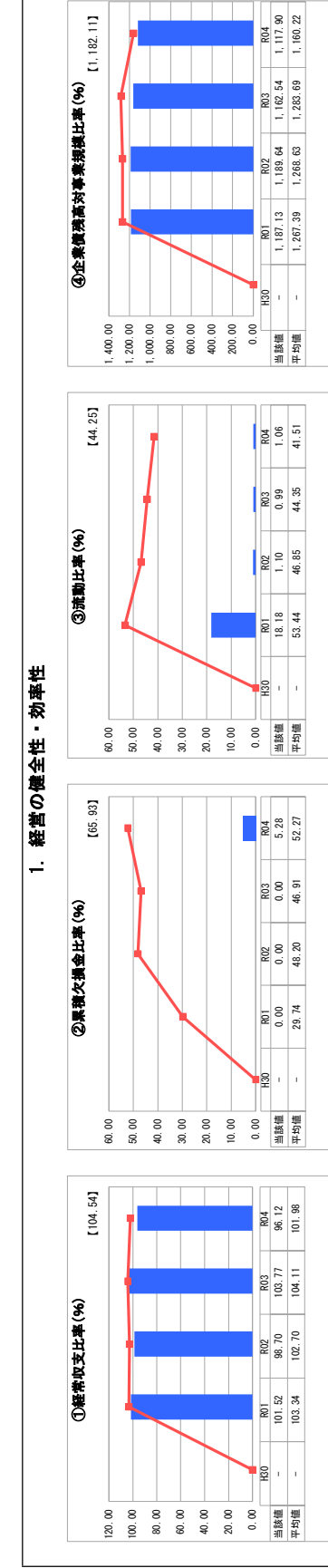
全体総括

公共下水道事業は、供用開始から34年を経過し、営業の耐用年数には至っていないものの、ポンプ等の機器類の老朽化は進み、今後、維持管理費や下水道施設の更新のための支出は増加する状況にある。経営状況については、類似団体に比べ、経常収支比率、経費回収率は長い数値となつてはいるが、企業債高対事業債比率や汚水処理原価は高くなつてはいる。老朽化の状況については、営業は耐用年数に至つていないため表れていないが、類似団体に比べ有形固定資産減価償却率は高く、老朽化は進んでいる。令和6年4月と令和7年4月に下水道使用料を改定し経費の安定化を図り、未普及解消や施設の計画的な更新を推進することとしている。

※ 「経常収支比率」、「黒字欠損金比率」、「流動比率」、「営業老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみでの類似団体平均値及び全国平均を算出しています。

経営比較分析表（令和4年度決算）

| | | | | | | | |
|---------|-------------|--------------------|--------------|--------------------------------|---------------------|----------------------------------|---|
| 鳥根県 出雲市 | 業務名 法適用 | 事業名 特定環境保全公共下水道 | 類似団体区分 D1 | 管理者の情報 自治体職員 | 人口(人) 173,835 | 面積(km ²) 624.32 | 人口密度(人/km ²) 278.44 |
| | 資金不足比率(%) | 普及率(%) | 有収率(%) | 1か月20m ³ 当たり家賃料金(円) | 処理区域内人口(人) 1,979 | 処理区域面積(km ²) 0.95 | 処理区域内人口密度(人/km ²) 2,083.16 |
| | 自己資本構成比率(%) | 1.14 | 100.00 | 3,352 | | | |
| | 33.23 | | | | | | |



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

- ① 工事請負費及び委託料の増加により費用が増加したため、前年度より低くなり、類似団体を下回っている。
- ② 前年度より高くなったが、類似団体を下回っている。他事業を含めた会計全体では次損金は生じていない。
- ③ 未収金の増加により流動資産が増加したため、前年度より高くなったが、類似団体を下回っている。
- ④ 企業債現在高が減少したため、前年度より低くなり、類似団体を下回っている。
- ⑤ 使用料収入で汚水処理に係る費用を賄えていない。汚水処理費が増加したため、前年度より低くなったが、類似団体を上回っている。
- ⑥ 汚水処理費が増加し、年間有収水量が減少したため、前年度より高くなり、類似団体を上回っている。
- ⑦ 処理水量が減少したため、前年度より低くなり、類似団体を下回っている。
- ⑧ 整備は完了しており、水洗化人口の減少に比べ、処理区域内人口の減少が多かったため、前年度より高くなり、類似団体を上回っている。

2. 老朽化の状況について

- ① 管渠については、耐用年数を経過していないが、供用開始34年を経過し、減価償却費累計額が増加している。
- ② 管渠の耐用年数は経過していない。
- ③ 管渠不良箇所の更新は行っていない。

全体総括

特定環境保全公共下水道事業は、3処理区のうち供用開始後30年以上を経過している処理区が2箇所ある。管渠の耐用年数には至っていないものも、ポンプ等の機器類の老朽化は進み、今後、維持管理費や下水道施設の更新のための支出は増加する状況にある。

経営状況については、類似団体に比べ、企業債残高対事業残高比率、経費回収率は良い数値となっており、管渠改善率は低く、汚水処理原価は高くなっている。

老朽化の状況については、管渠は耐用年数を経過していないが、類似団体に比べ有形固定資産減価償却率は高く、老朽化は進んでいる。

このように、令和6年4月と令和7年4月に下水道使用料を改定し、経営の安定化を図り、施設の計画的な更新を推進することとしている。

※ 「経常収支比率」、「黒字/次損金比率」、「流動比率」、「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみで類似団体平均値及び全国平均を算出しています。

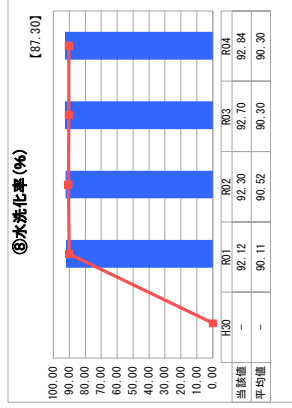
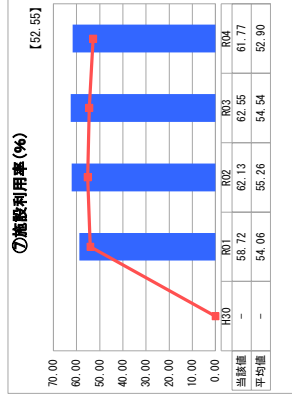
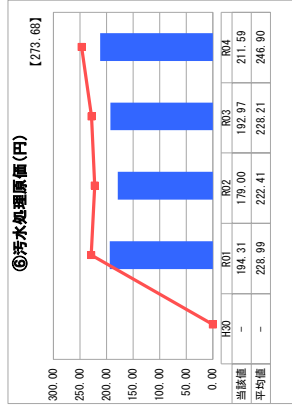
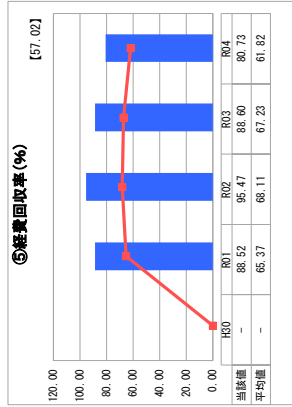
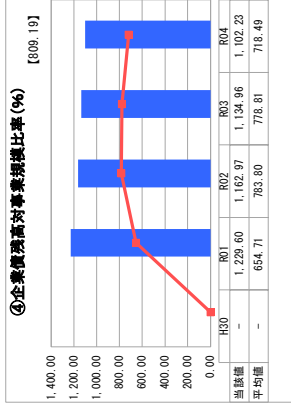
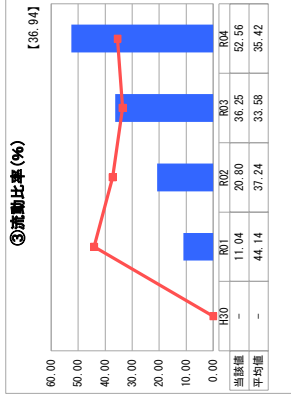
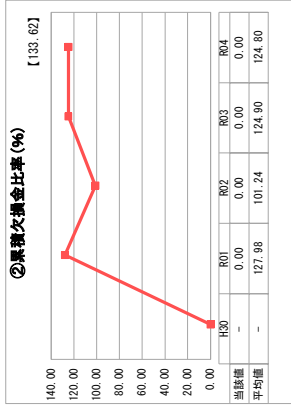
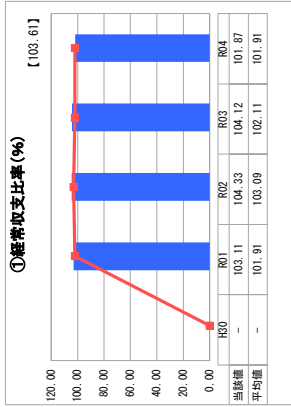
経営比較分析表（令和4年度決算）

| | | | | | | | | |
|---------|------------|--------------|---------------|--------------|--------------------------------|----------------------|-----------------------------------|---|
| 島根県 出雲市 | 業務名 法適用 | 業種名 下水道事業 | 事業名 農業集落排水 | 類似団体区分 F1 | 管理者の情報 自治体職員 | 人口(人) 173,835 | 面積(km ²) 624.32 | 人口密度(人/km ²) 278.44 |
| | 資金不足比率(%) | 自己資本構成比率(%) | 普及率(%) | 有収率(%) | 1か月20m ³ 当たり家賃料金(円) | 処理区域内人口(人) 27,414 | 処理区域面積(km ²) 11.41 | 処理区域内人口密度(人/km ²) 2,402.63 |
| | - | 47.89 | 15.83 | 86.12 | 3,352 | | | |

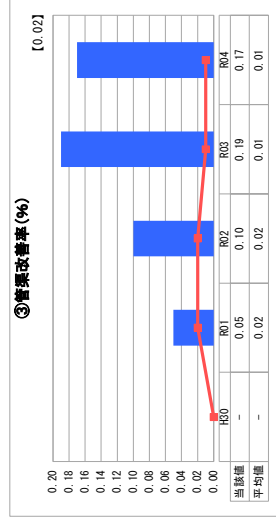
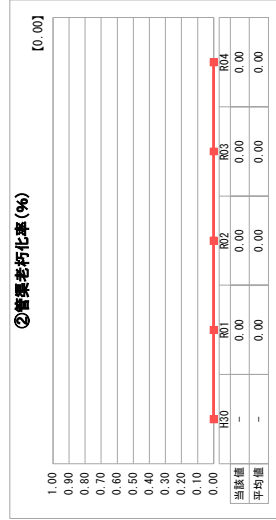
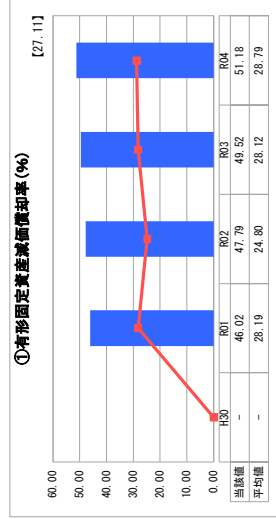
グラフ凡例

- 当該団体値 (当該値)
- 類似団体平均値 (平均値)
- 令和4年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

- ①収益の減少に比べ費用の減少が少なかったため、前年度より低くなり、類似団体と同水準となった。
- ②次償金なし。
- ③現金・預金の増加により流動資産が増加したため、前年度より高くなり、類似団体を上回っている。
- ④企業債現在高が減少したため、前年度より低くなったが、類似団体を上回っている。
- ⑤使用料収入で汚水処理に係る費用を賄えていない。汚水処理費が増加したため、前年度より低くなったが、類似団体を上回っている。
- ⑥汚水処理費が増加し、年間収水量が減少したため、前年度より高くなったが、類似団体を下回っている。
- ⑦処理水量が減少したため、前年度より低くなったが、類似団体を上回っている。
- ⑧整備は完了しており、水洗化人口の減少に比べ、処理区域内人口の減少が多かったため、前年度より高くなり、類似団体を上回っている。

2. 老朽化の状況について

- ①営業については、耐用年数を経過していないが、供用開始39年を経過し、減価償却費が増加したため、前年度より高くなり、類似団体を上回っている。
- ②営業の耐用年数は経過していない。
- ③営業調査等により判明した不良箇所について更新を行っており、前年度より更新費が増加したため、前年度より高くなり、類似団体を上回っている。

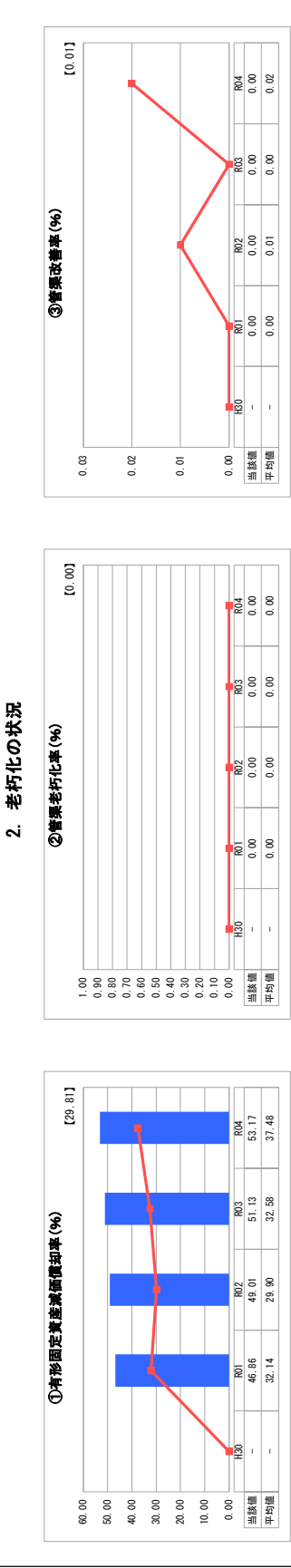
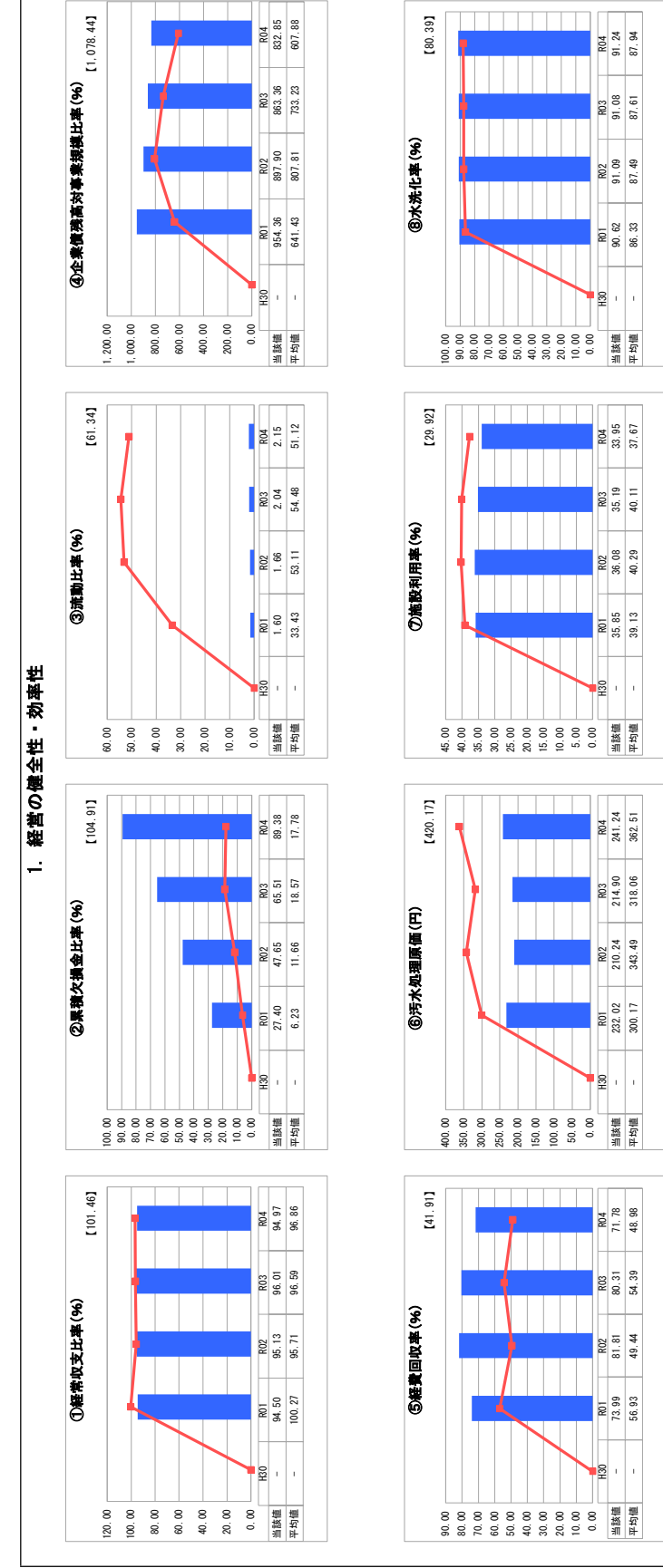
全体総括

農業集落排水事業は、39処理区のうち供用開始後30年以上を経過している処理区が5箇所ある。管理は耐用年数を経過していないものの、ポンプ等の機器の老朽化が進み、今後、維持管理費や下水道施設の更新のための支出が増加する状況にある。経営状況については、類似団体に比べ、経費回収率、汚水処理原価については良い数値となっている。老朽化の状況については、営業は耐用年数を経過していないため数値には表れていないが、類似団体に比べ有形固定資産減価償却率は高く、類似団体と同水準である。令和6年4月と令和7年4月に下水道使用料を改定し経費の安定化を図り、施設の計画的な更新を推進することとしている。

※ 「経常収支比率」、「累積次償金比率」、「流動比率」、「営業老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみを類似団体平均値及び全国平均を算出しています。

経営比較分析表（令和4年度決算）

| | | | | | | |
|---------|----------------|------------------|---|---------------------|----------------------------------|---|
| 鳥根県 出雲市 | 事業名 法適用 | 類似団体区分 H1 | 管理者の情報 自治体職員 | 人口(人) 173,835 | 面積(km ²) 624.32 | 人口密度(人/km ²) 278.44 |
| | 業務名 下水道事業 | 有収率(%) 100.00 | 1か月20m ³ 当たり家賃料金(円) 3,352 | 処理区域内人口(人) 2,750 | 処理区域面積(km ²) 0.87 | 処理区域内人口密度(人/km ²) 3,160.92 |
| | 資金不足比率(%) - | 普及率(%) 1.59 | 自己資本構成比率(%) 52.08 | | | |
| | | | | | | |



グラフ凡例

- 当該団体値 (当該値)
- 類似団体平均値 (平均値)
- 令和4年度全国平均

分析欄

- 経営の健全性・効率性について**
 - ①収益の減少に比べ費用の減少が少なかったため、前年度より低くなり、類似団体を下回っている。
 - ②前年度より高くなり、類似団体を上回っている。他事業を含めた会計全体では欠損金は生じていない。
 - ③企業債償還金の減少により流動負債が減少したため、前年度より高くなったが、類似団体を下回っている。
 - ④企業債現在高が減少したため、前年度より低くなったが、類似団体を上回っている。
 - ⑤使用料収入で汚水処理にかかる費用を賄えていない。汚水処理費が増加したため、前年度より低くなったが、類似団体を上回っている。
 - ⑥汚水処理費が増加し、年間平均水量が減少したため、前年度より高くなったが、類似団体を下回っている。
 - ⑦処理水量が減少したため、前年度より低くなり、類似団体を下回っている。
- 老朽化の状況について**
 - ①管渠については、耐用年数を経過していないが、供用開始後42年を経過し、減価償却費累計額が増加したため、前年度より高くなり、類似団体を上回っている。
 - ②管渠の耐用年数は経過していない。
 - ③管渠不良箇所の更新は行っていない。

全体総括

漁業集落排水事業は、11処理区のうち供用開始後30年を経過している処理区が3箇所ある。管渠は耐用年数を経過していないものの、ポンプ等の機器類の老朽化は進み、今後、維持管理費や下水道施設の更新のための支出は増加する状況にある。経営状況については増加する状況にある。経費回収率、汚水処理原価については類似団体より低く、経費回収率が、経常収支比率は低く、企業債返済対事業規模比率は高くなっている。

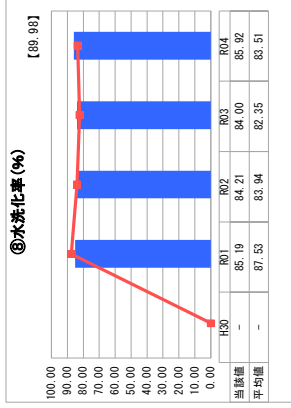
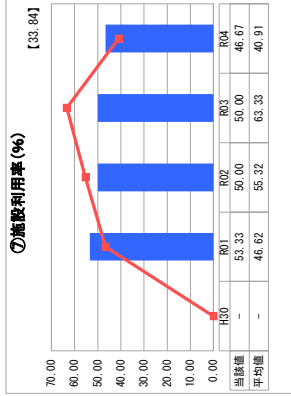
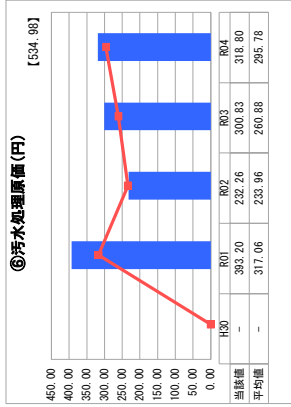
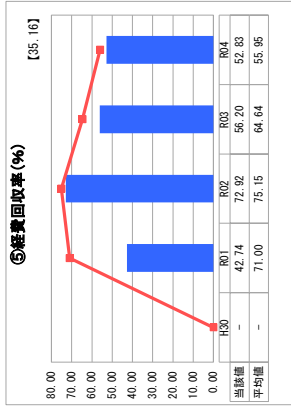
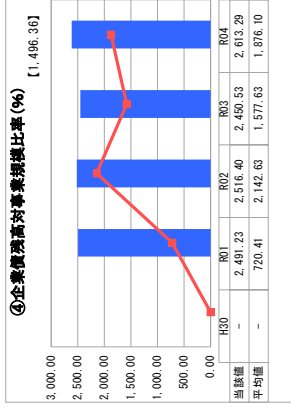
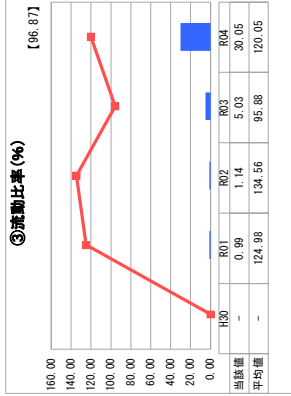
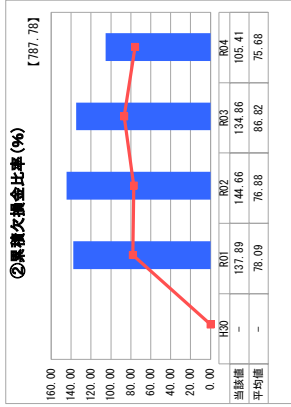
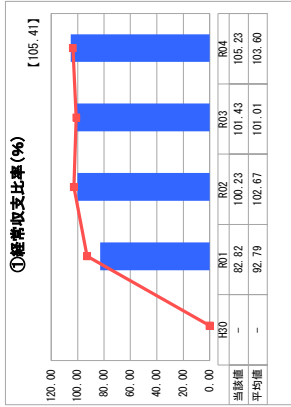
このように、令和6年4月と令和7年4月に下水道使用料を改定し経費の安定化を図り、施設の計画的更新を推進することとしている。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみで算出しています。

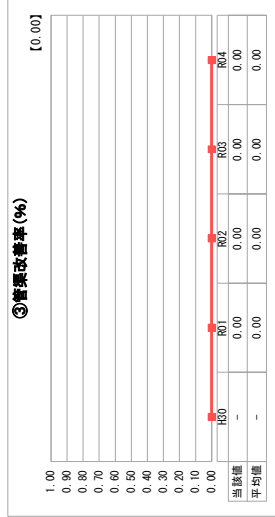
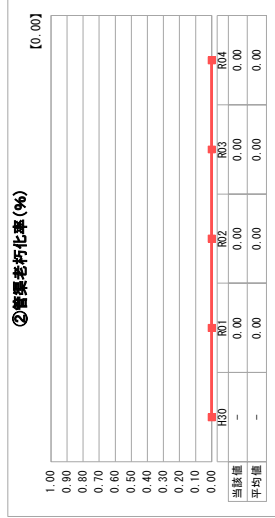
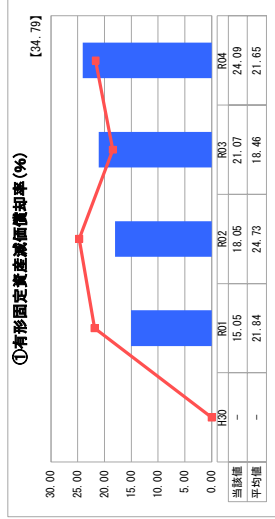
経営比較分析表（令和4年度決算）

| | | | | | | | | |
|---------|------------|--------------|------------------|--------------|--------------------------------|------------------|----------------------------------|---|
| 鳥根県 出雲市 | 業務名 法適用 | 業種名 下水道事業 | 事業名 小規模集合排水処理 | 類似団体区分 13 | 管理者の情報 自治体職員 | 人口(人) 173,835 | 面積(km ²) 624.32 | 人口密度(人/km ²) 278.44 |
| | 資金不足比率(%) | 自己資本構成比率(%) | 普及率(%) | 有収率(%) | 1か月20m ³ 当たり家賃料金(円) | 処理区域内人口(人) 71 | 処理区域面積(km ²) 0.01 | 処理区域内人口密度(人/km ²) 7,100.00 |
| | - | 1.22 | 0.04 | 100.00 | 3,352 | | | |

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



グラフ凡例

- 当該団体値 (当該値)
- 類似団体平均値 (平均値)
- 令和4年度全国平均

分析欄

- 経営の健全性・効率性について
 - ①他会計負担金の増加により収益が増加したため、前年度より高くなり、類似団体を上回っている。
 - ②前年度より低くなったが、類似団体を上回っている。他事業を含めた会計全体では欠損金は生じていない。
 - ③現金・預金の増加により流動資産が増加し、前年度より高くなったが、類似団体を下回っている。
 - ④使用料収入が減少したため、前年度より高くなり、類似団体を上回っている。
 - ⑤使用料収入で汚水処理にかかると費用を賅えていない。使用料収入の減少が汚水処理費の減少を上回ったため、前年度より低くなり、類似団体を下回っている。
 - ⑥年間取水量が減少したため、前年度より高くなり、類似団体を上回っている。
 - ⑦処理水量が減少したため、前年度より低くなったが、類似団体を上回っている。
 - ⑧整備は完了しており、水洗化人口の減少に比べ、処理区域内人口の減少が多かったため、前年度より高くなり、類似団体を上回っている。

2. 老朽化の状況について

- ①供用開始後1年を経過し、減価償却費累計額が増加したため、前年度より高くなり、類似団体を上回っている。
- ②管渠の耐用年数は経過していない。
- ③管渠不良箇所の更新は行っていない。

全体総括

小規模集合排水処理事業は、事業規模が小さいため、本事業単独での収支改善は困難があるが、今後、維持管理費や下水道施設の更新のための支出は増加する状況にある。類似団体と比べ、経費回収率については良い数値となっているが、経費回収率は低く、企業直営対事業残債比率及び汚水処理原価は高くなっている。

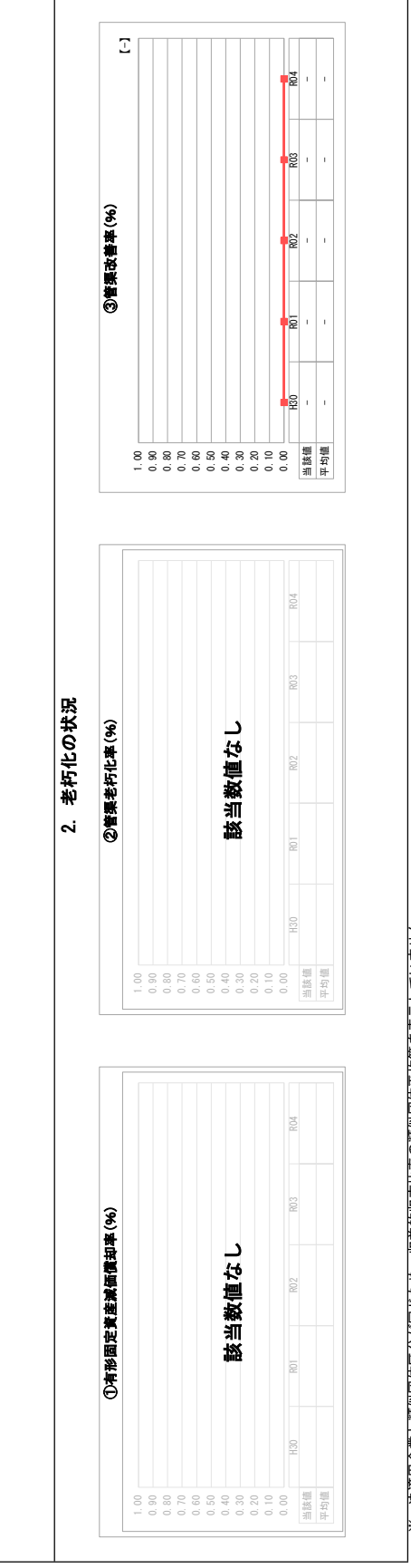
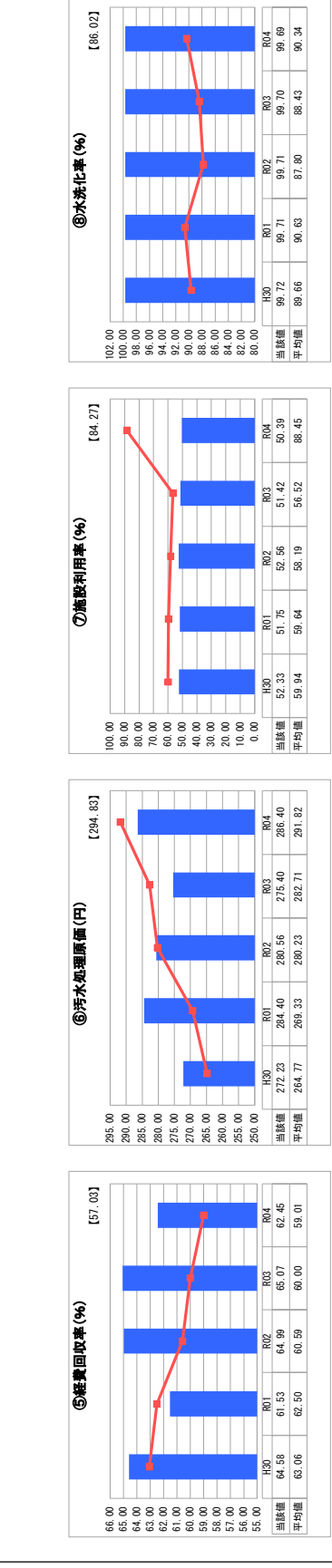
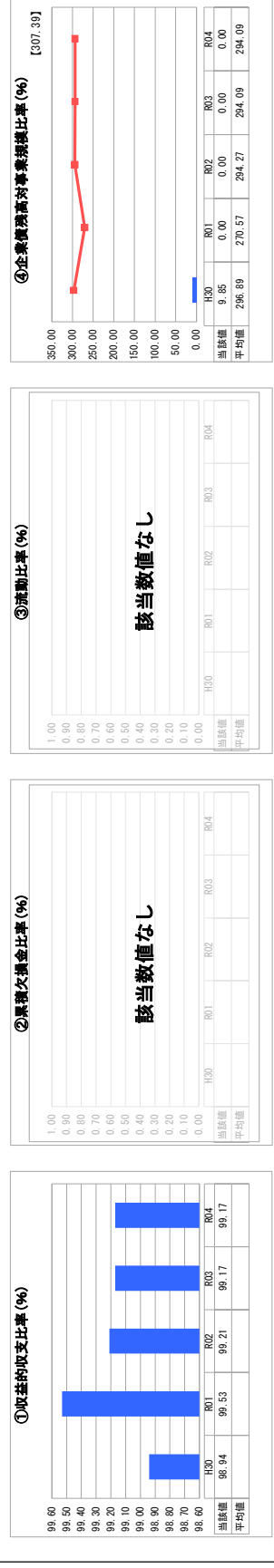
老朽化の状況については、平成27年度に供用開始した施設のため老朽化はあまり進んでいないが、類似団体に比べ有形固定資産減価償却率は高く、水道使用料を改定し経費の安定化を図り、施設の計画的な更新を推進することとしている。

※ 「経常収支比率」、「黒字欠損金比率」、「流動比率」、「営業老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみで算出しています。

経営比較分析表（令和4年度決算）

| | | | | | | | |
|---------|-------------|------------|--------|--------------------------------|------------|--------------------------|-------------------------------|
| 鳥取県 出雲市 | 業務名 | 事業名 | 類似団地区分 | 管理者の情報 | 人口(人) | 面積(km ²) | 人口密度(人/km ²) |
| | 法非適用 | 特定地域生活排水処理 | K2 | 非設置 | 173,835 | 624.32 | 278.44 |
| | 資金不足比率(%) | 普及率(%) | 有収率(%) | 1か月20m ³ 当たり家賃料金(円) | 処理区域内人口(人) | 処理区域面積(km ²) | 処理区域内人口密度(人/km ²) |
| | - | 2.06 | 100.00 | 3,352 | 3,571 | 0.02 | 178,550.00 |
| | 業種名 | 普及率(%) | 有収率(%) | 1か月20m ³ 当たり家賃料金(円) | 人口(人) | 面積(km ²) | 人口密度(人/km ²) |
| | 下水道事業 | 2.06 | 100.00 | 3,352 | 173,835 | 624.32 | 278.44 |
| | 自己資本構成比率(%) | 普及率(%) | 有収率(%) | 1か月20m ³ 当たり家賃料金(円) | 処理区域内人口(人) | 処理区域面積(km ²) | 処理区域内人口密度(人/km ²) |
| | 該当数値なし | 2.06 | 100.00 | 3,352 | 3,571 | 0.02 | 178,550.00 |

1. 経営の健全性・効率性



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について
 本事業は、個別排水処理事業とあわせ、浄化槽設置事業会計として実施している。
 経営状況は、公共下水道との負担の公平性の観点から、使用料体系が同一となっており、使用料収入等の自主財源で維持管理経費を賚ることができず、市債還源の不足状況である。
 ①収益的収支比率 総収益の対前年度増加率と総費用に地方債償還金を加えた費用の対前年度増加率が同等であったため、前年度と同値となった。
 ②企業債務対事業性総借比率 地方債現在借入金と一般会計繰入金で全額賚担していることから、比率は0%となった。
 ③経費回収率 下水道使用料は減少し、汚水処理費は増加したため、前年度より低くなったが、類似団体を上回っている。
 ④汚水処理原価 汚水処理費が増加し、年間有収水量が減少したため、前年度より高くなったが、類似団体を下回っている。
 ⑤施設利用率 晴天時一日平均処理量が減少したため、前年度より低くなった。
 ⑥水洗化率 前年度とほぼ同等で、高い水準を維持している。また、整備が完了していることから、類似団体を上回っている。

2. 老朽化の状況について
 本事業は、平成15年度から実施した事業であり、法定耐用年数を経過する施設はなく、主にプロパポンプ等の機器類について、老朽化の状況に応じた修繕を行っている。
 今後とも適正な維持管理に努めるとともに、老朽化の進行や更新期の到来に備え、最善命化、更新の方法について、検討を行う必要がある。

全体総括
 本事業は、平成29年度をもって新掃の浄化槽設置を終了した。今後は、施設の適正な管理運営を実施していく必要がある。
 令和4年度は、下水道使用料は減少し、汚水処理費は増加したため、総経回時率は前年度より低くなった。他方で、汚水処理原価は前年度より高くなった。今後は、施設の適正な維持管理に努める一方、引き続き経費削減に努め、経営の改善を図っていく。

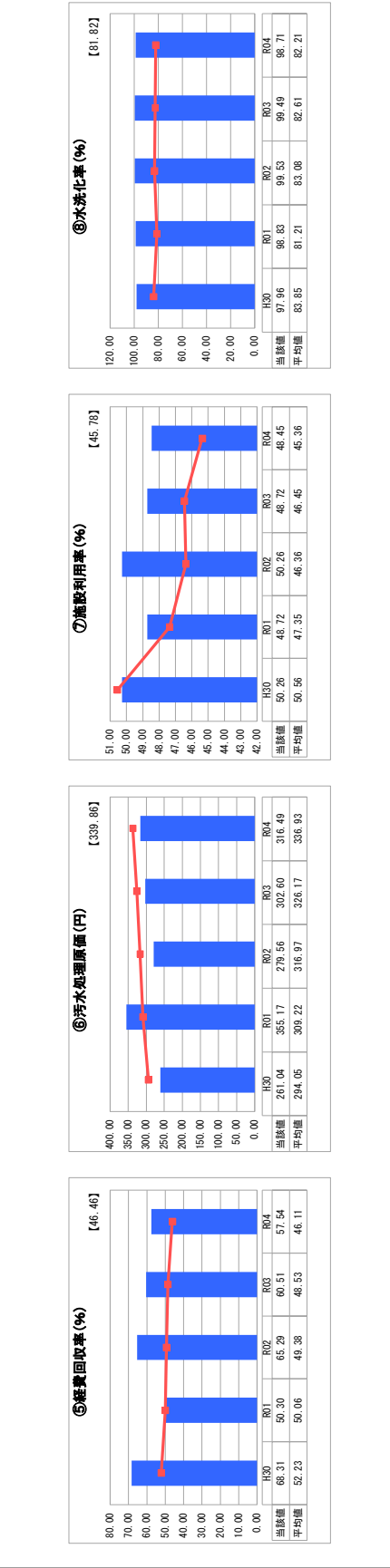
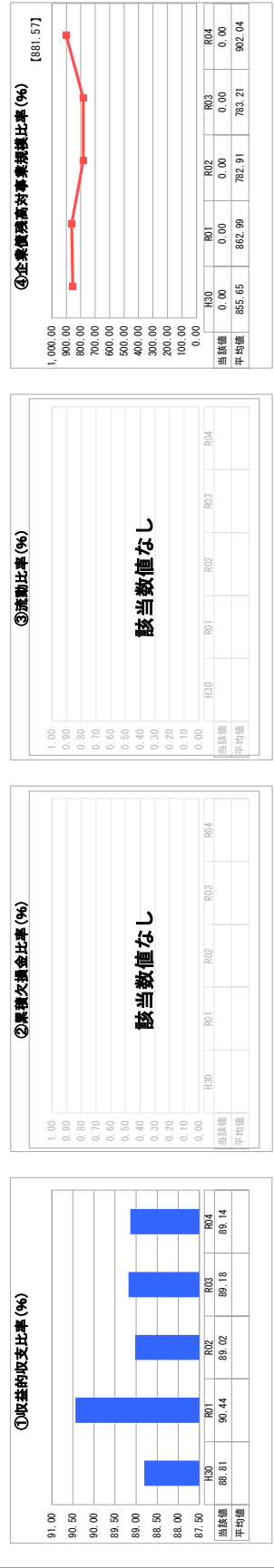
※ 適用企業と類似団地区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。

経営比較分析表（令和4年度決算）

| | | | | | | | |
|---------|-------------|---------------|--------------|--------------------------------|------------------|--------------------------------|------------------------------------|
| 鳥根県 出雲市 | 業務名 法非通用 | 事業名 個別排水処理 | 類似団体区分 L2 | 管理者の情報 非設置 | 人口(人) 173,835 | 面積(km ²) 624.32 | 人口密度(人/km ²) 278.44 |
| | 資金不足比率(%) | 普及率(%) | 有収率(%) | 1か月20m ³ 当たり家賃料金(円) | 処理区域内人口(人) | 処理区域面積(km ²) | 処理区域内人口密度(人/km ²) |
| | - | 0.22 | 100.00 | 3,352 | 388 | 0.08 | 4,850.00 |
| | 自己資本構成比率(%) | 普及率(%) | 有収率(%) | 1か月20m ³ 当たり家賃料金(円) | 処理区域内人口(人) | 処理区域面積(km ²) | 処理区域内人口密度(人/km ²) |
| | 該当数値なし | 0.22 | 100.00 | 3,352 | 388 | 0.08 | 4,850.00 |

| | | | |
|--------|---------------|-----------------|-------------|
| グララフ凡例 | ■ 当該団体値 (当該値) | ○ 類似団体平均値 (平均値) | □ 令和4年度全国平均 |
|--------|---------------|-----------------|-------------|

1. 経営の健全性・効率性について



2. 老朽化の状況



1. 経営の健全性・効率性について
 本事業は、特定地域排水処理事業とあわせ、浄化槽設置事業会計として実施している。経営の健全性の観点から、公共下水道との負担の公平性の観点から、使用料体系が同一となっており、使用料収入等の自主財源で維持管理経費を賚ることができず、市債償還額の不足分とあわせ、一般会計繰入金に頼るざるを得ない状況である。総収益、総費用、地方債償還金のいずれも増加したが、総費用に地方債償還金を加えた費用の増加が、総収益の増加を上回ったため、前年度より低くなった。
 ④企業債返済高対事業残債比率 地方債現在高を一般会計繰入金で全額負担していることから、比率は0%となった。
 ⑤経費回収率 下水道使用料は減少し、汚水処理費は増加したため、前年度より低くなったが、類似団体を上回っている。
 ⑥汚水処理原価 汚水処理費が増加し、年間有収水量が減少したため、前年度より高くなったが、類似団体を下回っている。
 ⑦施設利用率 晴天時に処理能力の減少率より前年度より低くなった。
 ⑧水洗化率 処理区域内人口の減少に比べ、水洗便所設置人口の減少が多かったため、前年度より低くなったが、類似団体を上回っている。

2. 老朽化の状況について
 本事業は、平成11年度から実施した事業であり、法定耐用年数を経過する施設はなく、主にプロアポンプ等の機器類について、老朽化の状況に応じた修繕を行っている。
 今後とも適正な維持管理に努めるとともに、老朽化の進行や更新期の到来に備え、最善命化、更新の方法について、検討を行う必要がある。

全体総括
 本事業は、新規の浄化槽設置を終了していることから、今後は、施設の適正な管理運営を実施していく必要がある。
 令和4年度は、下水道使用料は減少し、汚水処理費は増加したため、総費用が前年度より低くなった。他方で、汚水処理原価は前年度より高くなった。今後とも、施設の適正な維持管理に努める一方で、引き続き経営の削減に努め、経営の改善を図っていく。

※ 適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。

【経営指標の概要】

水道事業

1. 経営の健全性・効率性

| 指標 | 算出式(法適用企業) | 指標の意味 | 分析の考え方 |
|--------------------|--|---|--|
| ① 経常収支比率 (%) | $\frac{\text{経常収益}}{\text{経常費用}} \times 100$ | 当該年度において、給水収益や一般会計からの繰入金等の収益で、維持管理費や支払利息等の費用をどの程度賄えているかを表す指標である。 | 単年度の収支が黒字であることを示す100%以上となっていることが必要である。数値が100%未満の場合、単年度の収支が赤字であることを示しているため、経営改善に向けた取組が必要である。なお、法非適用事業については、算出式に地方債償還に充てる収入の一部が算入されないため、数値が100%を割り込む場合がある。 |
| ② 累積欠損金比率 (%) | $\frac{\text{当年度未処理欠損金}}{\text{営業収益-受託工事収益}} \times 100$ | 営業活動により生じた損失を、前年度からの繰越利益剰余金等でも補填することができず、複数年度にわたって累積した欠損金の状況を表す指標である。 | 累積欠損金が発生していないことを示す0%であることが求められる。数値が0%より高い場合は、経営の健全性に課題があるといえる。経年の状況も踏まえながら0%となるよう経営改善を図っていく必要がある。 |
| ③ 流動比率 (%) | $\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}} \times 100$ | 短期的な債務に対する支払能力を表す指標である。 | 1年以内に支払うべき債務に対して支払うことができる現金等がある状況を示す100%以上であることが必要である。 |
| ④ 企業債残高対給水収益比率 (%) | $\frac{\text{企業債現在高合計}}{\text{給水収益}} \times 100$ | 給水収益に対する企業債残高の割合であり、企業債残高の規模を表す指標である。 | 明確な数値基準はないと考えられる。従って、経年比較や類似団体との比較等により自団体の置かれている状況を把握・分析する必要がある。 |
| ⑤ 料金回収率 (%) | $\frac{\text{供給単価}}{\text{給水原価}} \times 100$ | 給水に係る費用が、どの程度給水収益で賄えているかを表した指標であり、料金水準等を評価することが可能である。 | 供給単価と給水原価との関係を見るものであり、料金回収率が100%を下回っている場合、給水に係る費用が給水収益以外の収入で賄われていることを意味する。数値が低く、繰出基準に定める事由以外の繰出金によって収入不足を補填しているような事業体においては、適切な料金収入の確保が求められる。 |
| ⑥ 給水原価(円) | $\frac{\text{経常費用-(受託工事費+材料及び不用品売却原価+附帯事業費)-長期前受金戻入}}{\text{年間総有収水量}}$ | 有収水量1m ³ あたりについて、どれだけの費用がかかっているかを表す指標である。 | 明確な数値基準はないと考えられるが、必要に応じて、投資の効率化や維持管理費の削減といった経営改善が必要である。 |
| ⑦ 施設利用率 (%) | $\frac{\text{一日平均配水量}}{\text{一日配水能力}} \times 100$ | 一日配水能力に対する一日平均配水量の割合であり、施設の利用状況や適正規模を判断する指標である。 | 明確な数値基準はないと考えられるが、一般的には高い数値であることが望まれる。 |
| ⑧ 有収率 (%) | $\frac{\text{年間総有収水量}}{\text{年間総配水量}} \times 100$ | 施設の稼働が収益につながっているかを判断する指標である。 | 100%に近ければ近いほど施設の稼働状況が収益に反映されていると言える。数値が低い場合は、水道施設や給水装置を通して給水される水量が収益に結びついていないため、漏水やメーター不感等といった原因を特定し、その対策を講じる必要がある。 |

2. 老朽化の状況

| 指標 | 算出式(法適用企業) | 指標の意味 | 分析の考え方 |
|-------------------|---|--|--|
| ① 有形固定資産減価償却率 (%) | $\frac{\text{有形固定資産減価償却累計額}}{\text{有形固定資産のうち償却対象資産の帳簿原価}} \times 100$ | 有形固定資産のうち償却対象資産の減価償却がどの程度進んでいるかを表す指標で、資産の老朽化度を示している。 | 明確な数値基準はないと考えられるが、一般的に、数値が100%に近いほど、保有資産が法定耐用年数に近づいていることを示しており、将来の施設の更新等の必要性を推測することができる。 |
| ② 管路経年比率 (%) | $\frac{\text{法定耐用年数を経過した管路延長}}{\text{管路延長}} \times 100$ | 法定耐用年数を超えた管路延長の割合を表す指標で、管路の老朽化度を表している。 | 明確な数値基準はないと考えられるが、一般的に、数値が高い場合は、法定耐用年数を経過した管路を多く保有しており、管路の更新等の必要性を推測することができる。 |
| ③ 管路更新率 (%) | $\frac{\text{当該年度に更新した管路延長}}{\text{管路延長}} \times 100$ | 当該年度に更新した管路延長の割合を表す指標で、管路の更新ペースや状況を把握できる。 | 明確な数値基準はないと考えられるが、数値が1%の場合、すべての管路を更新するのに100年かかる更新ペースであることが把握できる。 |

下水道事業

【経営指標の概要】

1. 経営の健全性・効率性

| 指標 | 算出式(法適用企業) | 算出式(法非適用企業) | 指標の意味 | 分析の考え方 |
|------------------|--|--|--|---|
| ①経常収支比率(%) | $\frac{\text{経常収益}}{\text{経常費用}} \times 100$ | $\frac{\text{総収益}}{\text{総費用} + \text{地方債償還金}} \times 100$ | 当該年度において、料金収入や一般会計からの繰入金等の収益で、維持管理費や支払利息等の費用をどの程度賄えているかを表す指標である。 | 単年度の収支が黒字であることを示す100%以上となっていることが必要である。数値が100%未満の場合、単年度の収支が赤字であることを示しているため、経営改善に向けた取組が必要である。 |
| ①収益的収支比率(%) | | | 料金収入や一般会計からの繰入金等の総収益で、総費用に地方債償還金を加えた費用をどの程度賄えているかを表す指標である。 | 累積欠損金が発生していないことを示す0%であることを求めることが求められる。数値が0%より高い場合は、経営の健全性に課題があるといえる。経営の状況も踏まえながら0%とならないよう経営改善を図っていく必要がある。 |
| ②累積欠損金比率(%) | $\frac{\text{当年度未処理欠損金}}{\text{営業収益} - \text{受託工事収益}} \times 100$ | | 営業活動により生じた損失を、前年度からの繰越利益剰余金等でも補填することができず、複数年度にわたって累積した欠損金の状況を表す指標である。 | 1年以内に支払うべき債務に対して支払うことができる現金等がある状況を示す100%以上であることが必要である。 |
| ③流動比率(%) | $\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}} \times 100$ | | 短期的な債務に対する支払能力を表す指標である。 | 1年以内に現金化できる資産で、1年以内一般的に100%を下回るということは、1年以内に支払わなければならない負債を賄えておらず、支払能力を高めるための経営改善を図っていく必要がある。 |
| ④企業債残高対事業規模比率(%) | $\frac{\text{企業債現在高合計} - \text{一般会計負担額}}{\text{営業収益} - \text{受託工事収益} - \text{雨水処理負担金}} \times 100$ | $\frac{\text{地方債現在高合計} - \text{一般会計負担額}}{\text{営業収益} - \text{受託工事収益} - \text{雨水処理負担金}} \times 100$ | 料金収入に対する企業債残高の割合であり、企業債残高の規模を表す指標である。 | 明確な数値基準はないと考えられる。従って、経年比較や類似団体との比較等により自団体の置かれている状況を把握・分析する必要がある。 |
| ⑤経費回収率(%) | $\frac{\text{下水道使用料}}{\text{汚水処理費(公費負担分を除く)}} \times 100$ | $\frac{\text{下水道使用料}}{\text{汚水処理費(公費負担分を除く)}} \times 100$ | 使用料で回収すべき経費を、どの程度使用料で賄えているかを表した指標であり、使用料水準等を評価することが可能である。 | 使用料で回収すべき経費を全て使用料で賄えている状況を示す100%以上であることが必要である。 |
| ⑥汚水処理原価(円) | $\frac{\text{汚水処理費(公費負担分を除く)}}{\text{年間有収水量}}$ | $\frac{\text{汚水処理費(公費負担分を除く)}}{\text{年間有収水量}}$ | 有収水量1m ³ あたりの汚水処理に要した費用であり、汚水本費・汚水維持管理費の両方を合わせた汚水処理に係るコストを表した指標である。 | 明確な数値基準はないと考えられるが、必要に応じて、投資の効率化や維持管理費の削減、稼働率の向上による有収水量を増加させる取組といった経営改善が必要である。 |
| ⑦施設利用率(%) | $\frac{\text{晴天時一日平均処理量}}{\text{晴天時現在処理能力}} \times 100$ | $\frac{\text{晴天時一日平均処理量}}{\text{晴天時現在処理能力}} \times 100$ | 施設・設備が一日に対応可能な処理能力に対する、一日平均処理量の割合であり、施設の利用状況や適正稼働を判断する指標である。 | 明確な数値基準はないと考えられるが、一般的には高い数値であることが望まれる。経年比較や類似団体との比較等により自団体の置かれている状況を把握し、数値が低い場合には、施設が遊休状態ではないかが、適度なバックとなっていないかといった分析が必要である。 |
| ⑧水洗化率(%) | $\frac{\text{現在水洗便所設置済人口}}{\text{現在処理区域内人口}} \times 100$ | $\frac{\text{現在水洗便所設置済人口}}{\text{現在処理区域内人口}} \times 100$ | 現在処理区域内人口のうち、実際に水洗便所を設置して汚水処理している人口の割合を表した指標である。 | 公共用水域の水質保全や、使用料収入の増加等の観点から100%となっていることが望ましい。一般的に数値が100%未満である場合には、汚水処理が適切に行われておらず、水質保全の観点から問題が生じる可能性があることや、使用料収入を図るため、水洗化率向上の取組が必要である。 |

2. 老朽化の状況

| 指標 | 算出式(法適用企業) | 算出式(法非適用企業) | 指標の意味 | 分析の考え方 |
|-----------------|---|---|---|--|
| ①有形固定資産減価償却率(%) | $\frac{\text{有形固定資産減価償却累計額}}{\text{有形固定資産のうち償却対象資産の帳簿原価}} \times 100$ | | 有形固定資産のうち償却対象資産の減価償却がどの程度進んでいるかを表す指標で、資産の老朽化程度を示している。 | 明確な数値基準はないと考えられるが、一般的には、数値が100%に近いほど、保有資産が法定耐用年数に近づいていることを示しており、将来の施設の改築(更新・長寿命化)等の必要性を推測することができる。 |
| ②管渠老朽化率(%) | $\frac{\text{法定耐用年数を経過した管渠延長}}{\text{下水道布設延長}} \times 100$ | | 法定耐用年数を超えた管渠延長の割合を表した指標で、管渠の老朽化程度を示している。 | 明確な数値基準はないと考えられるが、一般的には、数値が高い場合には法定耐用年数を経過した管渠を多く保有しており、管渠の改築等の必要性を推測することができる。 |
| ③管渠改善率(%) | $\frac{\text{改善(更新・改良・維持)管渠延長}}{\text{下水道布設延長}} \times 100$ | $\frac{\text{改善(更新・改良・維持)管渠延長}}{\text{下水道布設延長}} \times 100$ | 当該年度に更新した管渠延長の割合を表した指標で、管渠の更新ペースや状況把握できる。 | 明確な数値基準はないと考えられるが、数値が1%の場合、すべての管渠を更新するのに100年かかる更新ペースであることが把握できる。管渠の耐用年数、老朽化の状況等を考慮の上、判断していく必要がある。 |

令和4年度「経営比較分析表」類似団体区分及び団体数・全国団体数

①水道事業区分一覧表……類似団体数 89 団体

| 給水形態 | 現在給水人口規模 | 区分 | 団体数 | 全国 |
|--------|-----------------------|-----------|-----------|-------|
| 末端給水事業 | 都道府県・指定都市 | 政令市等 | 20 | 1,243 |
| | 30 万人以上 | A1 | 49 | |
| | 15 万人以上30 万人未満 | A2 | 74 | |
| | 10 万人以上15 万人未満 | A3 | 89 | |
| | 5 万人以上10 万人未満 | A4 | 190 | |
| | 3 万人以上5 万人未満 | A5 | 202 | |
| | 1.5 万人以上3 万人未満 | A6 | 252 | |
| | 1 万人以上1.5 万人未満 | A7 | 131 | |
| | 5 千人以上1 万人未満 | A8 | 190 | |
| | 5 千人未満 | A9 | 46 | |
| 用水供給事業 | | B | 67 | 67 |

②公共下水道区分一覧表……類似団体数 158 団体

| 処理区域内人口区分 | 処理区域内人口密度区分 | 供用開始後年数別区分 | 類型区分 | 団体数 | 全国 | |
|-----------------|--------------|------------|------------|-----|-------|----|
| 10万以上 | 政令市等 | | 政令市等 | 21 | 1,177 | |
| | | | Aa | 33 | | |
| | 100人/ha以上 | 75人/ha以上 | 30年以上 | Ab | | 30 |
| | | | 30年未満 | Ac1 | | 46 |
| | | 50人/ha以上 | 30年未満 | Ac2 | | 2 |
| 3万以上 | 100人/ha以上 | 30年以上 | Ad | 59 | | |
| | | | 30年未満 | Ba | | 8 |
| | 75人/ha以上 | 30年未満 | Bb1 | 25 | | |
| | | | Bb2 | 2 | | |
| | 50人/ha以上 | 30年未満 | Bc1 | 63 | | |
| Bc2 | | | 12 | | | |
| 50人/ha未満 | 30年以上 | Bd1 | 158 | | | |
| | 30年未満 | Bd2 | 23 | | | |
| 3万未満 | 75人/ha以上 | 30年以上 | Ca | 3 | | |
| | | | Cb1 | 25 | | |
| | | | Cb2 | 22 | | |
| | 50人/ha以上 | 15年以上 | Cb3 | 4 | | |
| | | | 30年以上 | Cc1 | 153 | |
| | | | | Cc2 | 150 | |
| | 25人/ha以上 | 15年未満 | Cc3 | 19 | | |
| | | | 30年以上 | Cd1 | 122 | |
| | | | | Cd2 | 186 | |
| 25人/ha未満 | 15年未満 | Cd3 | 11 | | | |

③特定環境下水道区分一覧表……類似団体数 164 団体

| 供用開始後年数別区分 | 類型区分 | 団体数 | 全国 |
|--------------|-----------|------------|-----|
| 30年以上 | D1 | 164 | 714 |
| 15年以上 | D2 | 522 | |
| 15年未満 | D3 | 28 | |

④農業集落排水施設区分一覧表……類似団体数 246 団体

| 供用開始後年数別区分 | 類型区分 | 団体数 | 全国 |
|--------------|-----------|------------|-----|
| 30年以上 | F1 | 246 | 875 |
| 15年以上 | F2 | 621 | |
| 15年未満 | F3 | 8 | |

⑤漁業集落排水施設区分一覧表……類似団体数 32 団体

| 供用開始後年数別区分 | 類型区分 | 団体数 | 全国 |
|--------------|-----------|-----------|-----|
| 30年以上 | H1 | 32 | 165 |
| 15年以上 | H2 | 126 | |
| 15年未満 | H3 | 7 | |

⑥小規模排水処理施設区分一覧表……類似団体数 2 団体

| 供用開始後年数別区分 | 類型区分 | 団体数 | 全国 |
|--------------|-----------|----------|----|
| 30年以上 | I1 | 0 | 76 |
| 15年以上 | I2 | 74 | |
| 15年未満 | I3 | 2 | |

⑦特定地域排水処理施設区分一覧表……類似団体数 228 団体

| 供用開始後年数別区分 | 類型区分 | 団体数 | 全国 |
|--------------|-----------|------------|-----|
| 30年以上 | K1 | 0 | 280 |
| 15年以上 | K2 | 228 | |
| 15年未満 | K3 | 52 | |

⑧個別排水処理施設区分一覧表……類似団体数 136 団体

| 供用開始後年数別区分 | 類型区分 | 団体数 | 全国 |
|--------------|-----------|------------|-----|
| 30年以上 | L1 | 0 | 147 |
| 15年以上 | L2 | 136 | |
| 15年未満 | L3 | 11 | |